

「造形遊び」の研究
—内モンゴルにおける展開可能性の検討—

専攻 教育内容・方法開発
コース 文化表現系教育(美術)
学籍番号 M11195k
氏名 包 永盛

1. 問題の所在

内モンゴル自治区における「美術」課の教科書と日本の「図画工作」科の教科書を比較すると、日本には「造形遊び」の授業がある点が、異なっている。「造形遊び」は、子どもたちの興味と豊かな発想を引き出すうえで、とても興味深く、内モンゴルの小学校においても、ぜひ取り入れてみたいと考えた。

中国の「美術課程標準」に基づいて編集された、内モンゴル自治区の小学校の美術教科書を分析した結果、造形的なものづくり教育の題材や活動に使われる材料が内モンゴル地域の子どもの生活実態からは離れたものであると言う問題点が見えてきた。また、モンゴル族の文化や伝統的習俗・行事などが衰退している状況であるため、モンゴル族小学校において、モンゴル民族の文化や伝統、環境、地域の材料を活かした「造形遊び」を構想することが重要であると考える。

2. 研究の目的

本研究の目的は、内モンゴル自治区の小学校における「美術」の授業で、「造形遊び」を取り入れることの可能性について検討することである。

具体的な目的は、以下の通りである。

第1に、内モンゴル自治区の成立から今日までの社会、学校教育の変化及び現状を考察する。そのために、トゥンリョー市を中心に、この地域の子どもの環境、生活の実態と様式を探る。

第2に、日本の美術教育の歴史を概観するとともに日本における「造形遊び」の考え方、現状と課題を研究する。また「造形遊び」の授業を実地調査する。

第3に、内モンゴルの子どもたちの生活の実態と「造形遊び」につながる自然材料、文化、幼少の遊びなどをふまえて地域の特徴に即した「造形遊び」のプログラムを作成する。

3. 論文の構成

序章 問題の所在と目的

第一章 内モンゴルにおける社会と美術教育

第一節 内モンゴル自治区の社会

第二節 内モンゴルにおける美術教育

第二章 日本における美術教育と「造形遊び」の現状

第一節 日本における美術教育の歴史的概観

第二節 「造形遊び」の設立と展開

第三節 「造形遊び」の現状と課題

第三章 内モンゴルにおいて造形遊びを展開する可能性について検討

第一節 「造形遊び」につながる教材の検討

第二節 「造形遊び」に関するプログラム試案の作成

第三節 内モンゴルにおいて「造形遊び」を展開するうえでの問題点の検討

終章 成果と今後の課題

4. 研究の概要

第一章では、内モンゴルにおける社会と美術教育について考察した。まず、内モンゴル自治

区の概要を述べ、モンゴル族の生活・伝統的文化と行事などの歴史と現状を概観し、内モンゴルにおける美術教育の変遷を考察した。続いて、内モンゴルにおける美術教育の現状と課題についてまとめた。また、家庭と学校での生活、地域文化、伝統的な祭り・行事、遊びなどの変化は著しいものである。そのため、民族の独自性をどのように継承するかが大きな課題となっていることがわかった。

第二章では、「造形遊び」に関するプログラムの作成についての根拠を求めた。日本の小学校における美術教育の変遷と戦後の図画工作の教育、学習指導要領の変化などを概観した。また、「造形遊び」の考え方や、造形遊びの授業観察から得た知見を基に、「造形遊び」の現状と課題について考察した。

第三章では、内モンゴルにおいて「造形遊び」を展開する可能性について検討した。まず、内モンゴルの小学校で使われている「美術」の教科書『美術課程標準』の目標と学習内容及び日本の「図画工作」科の目標と学習内容について比較・考察した。また、「美術」科の教科書の課題を整理するとともに、内モンゴルの小学校に使われている「美術」の教科書から「造形遊び」につながる教材を取上げて分析した。

それらを基に、「造形遊び」に関するプログラム試案を作成した。具体的には、子どもたちの生活の実態を調査し、子どもたちの遊びの内容・作り方などを整理し、第一章と第二章の内容を考えて、子どもの実態を基礎とした、地域に適合する「造形遊び」のプログラム試案としてまとめたのである。

5. 成果と今後の課題

本研究では、内モンゴル自治区トンリョー市地域の子どもたちを対象として、地域に適合する「造形遊び」に関する各学年の題材列を構成した。そして、それらを配列し、プログラム試案としてまとめた。表1は、題材一覧である。

表1 各学年の題材一覧表

種類	低学年(題材名)	中学年(題材名)	高学年(題材名)
地域性から地域の実態に合わせて、入手可能な自然の材料を用い、造形をする活動。	●みんなで作りましょう ●私のシャーを見て	●変化する壁 ●砂の形	●砂と光
環境の特徴から四季の変化及び環境の特徴を活かした造形をする活動。	●日除け帽を作ろう ●染めてみる	●雪でつくる ●枝でつくる家	●風と凧
伝統的文化からモンゴル族の伝統的な文化、行事、郷土の民芸などに基づく造形活動。	●酪をつくりましょう ●オポー	●モンゴルブーツ ●昔の草原	●モンゴルゲールの製作

また、以下の4点が今後の課題である。

- ①各学年の題材列を、内モンゴルの小学校で実施すること。
- ②造形遊びの題材を展開するための有効な指導の手立てを明らかにすること。
- ③諸国の造形活動の実施状況を把握し、それらを参考に、造形遊びの目標と内容をさらに、分析・探究していくこと。
- ④内モンゴル各地域の自然素材と事物を調査・分析し、新しい素材や事物を媒介とした実践事例を収集し、「造形遊び」のプログラムを一層充実させること。

主な参考文献

- ・『新版日文図画工作』 文部科学省検定済教科書 日本文教出版株式会社 (平成22年)
- ・『小学校学習指導法』図画工作 渡邊千恵子 編著 玉川大学出版部 (2011年)
- ・『自己表現のために基礎基本を育てる絵画の授業』 初田隆 編著 明治図書出版 (2005年)
- ・『美術科教育の基礎知識』 福田隆真、福本謹一、茂木一司 編著 株式会社建帛社 (平成13年)

主指導教員 初田隆
指導教員 大西久